

ドイツ語（初級 A） 第 4 回 冠詞と名詞（名詞の性別、定冠詞と不定冠詞の格変化）

範囲：教科書第 2 課 A（S. 12-13）

《今回の基本例文》

7. Was ist das? – Das ist ein Anzug. Er ist dunkel. (CD11-4)

これは何ですか？– これは背広です。黒の柄です。

[不定冠詞、1 格、指示代名詞 das、物事を受ける人称代名詞、形容詞の述語的用法]

8. Wem gehört die Uhr? – Die Uhr gehört einer Studentin. (CD12-1)

その時計は誰のですか？– その時計はある（女子）学生のなんですよ。

[定冠詞、3 格、3 格目的語をとる自動詞]

9. Was kauft der Arzt. – Er kauft einen Sportwagen. (CD13-3)

その（男性）医師は何を買うのですか？– スポーツカーを一台買います。

[4 格]

I 名詞に関する大前提：性・数・格

■ 「格」

1 格： 主語（～は、～が）

2 格： 所有（～の）

3 格： 第 1 目的語（～に）

4 格： 第 2 目的語（～を）

◇ 英語の人称代名詞には、*I*（私は／私が）、*my*（私の）、*me*（私に、私を）のように、それぞれ日本語の格助詞（が、の、に、を）に対応するかたちが存在する。ドイツ語の場合、代名詞のみならず、すべての名詞（やそれを修飾する形容詞）にこのような変化形があり、これを**格**と呼ぶ。

◇ 格には、**1 格**（主格）、**2 格**（属格）、**3 格**（与格）、**4 格**（対格）の 4 種類があり、取り敢えずは上の囲いのように考えてよい。（⇒本配付資料 S. 6-8）

* もっとも、前置詞（⇒教科書第 5 課）や動詞によって目的語の格が決まる場合もあり、上記の定式に当てはまらないことも多い。例えば、*helfen*（英語の *help*）は、日本語の感覚では「～を助ける、～を手伝う」であり、4 格を使いそうに思えるが、実際には 3 格を用いる。こういった語法は、辞書を参照しないと判断できない。

◇ ドイツ語では、4 格を目的語とする動詞のみ他動詞と呼び、それ以外はすべて**自動詞**と呼ぶ。他動詞の略称は **vt.**、自動詞の略称は **vi.**となる。

* いずれもラテン語から来ている。他動詞は *verbum transitivum*、自動詞は *verbum intransitivum*。

なお、4 格を目的語とすることを「4 格目的語をとる」、3 格を目的語とすることを「3 格目的語をとる」などと呼ぶ。

◇ ドイツ語では、一部を除いて名詞それ自体ではなく、名詞にくっつく冠詞（英語でいう *the* や *a*）、指示代名詞（同じく *this* や *that* にあたるもの）、形容詞（同じく *red car* という際の *red*）が格変化をすると考えてよい（詳しくは後述）。

■ 「性」

男性名詞 (<i>m.</i>)	(例) der Stuhl → er で受ける
女性名詞 (<i>f.</i>)	(例) die Uhr → sie で受ける
中性名詞 (<i>n.</i>)	(例) das Heft → es で受ける

◇ ドイツ語の名詞は、**男性、女性、中性**の 3 つの性に分けられる。

* 上記の囲いの *m.*は Maskulinum、*f.*は Femininum、*n.*は Neutrum の略。

** 本によっては、**男**、**女**、**中**のように日本語で書かれている場合もある。

・男性名詞は **der**、女性名詞は **die**、中性名詞は **das** のように、1 格の定冠詞（後述）をつけて記載されることがある。

・既出の名詞を人称代名詞で受けるとき、男性名詞は男性の人称代名詞（1 格では **er**）を、女性名詞は女性の人称代名詞（1 格では **sie**）を、中性名詞は中性の人称代名詞（1 格では **es**）を用いる。つまり、人間ではないモノであっても男性名詞や女性名詞なら **er** や **sie** で受ける。

* もちろん英語の *he* や *she* は基本的には人間しか指さないもので、それとは勝手が異なる。

◇ 人間を表す名詞では、

・生物学上の性と文法上の性が一致するのが普通（父親 **Vater** は男性名詞、母親 **Mutter** は女性名詞）。

* ただし、特定の語尾を持つ名詞のなかには、その語尾に引っ張られて生物学上の性と文法上の性が一致しなくなるものもある。

例えば、**Mädchen**（少女、*girl*）は、**-chen** がついているため中性。下記「名詞の性別の見分け方」を参照。

・職業名には**男性形**と**女性形**があり、基本的にこれらを使い分ける。**Sänger/Sängerin**（男性歌手／女性歌手）、**Student/Studentin**（男子学生／女子学生）、**Arzt/Ärztin**（男性医師／女性医師）など。男性形に語尾**-in**を加えて女性形をつくるパターンが多い。

* **Student** → **Studentin** のように単に **-in** をつければよい場合と、**Arzt** → **Ärztin** のように母音に変音する場合とがある。下記「名詞の性別の見分け方」も参照。

◇ 一方、ほとんどの名詞の性別は、単に慣習的に決まっているにすぎない。名詞の性別を知るには、

・辞書を引く

のが基本である。一方、

・語尾や名詞の種類から規則的に判断できる

場合もある（すべてではない）。後者に関しては別紙「**名詞の性別の見分け方**」を用意したので、そちらも参照されたい。

* たいへん残念なことに、授業の最初のころに学ぶ基礎的な名詞であればあるほど、語尾で性別が判断できないものが多い。

■ 「数」

単数形 (*sg.*)

複数形 (*pl.*) → 単数形を操作してつくる（数パターン、後日学習）

◇ 英語と同じく、ドイツ語の名詞にも**単数形**と**複数形**が存在する。ただし、例外を除けば単数形に **s** をつけば複数形がつけれる英語と異なり、ドイツ語での複数形のつくり方は数パターンがある。ただし、これについて今回は詳しくは扱わず、教科書第 3 課であらためて学習する。

* *sg.*は Singular（英語の *singular*）、*pl.*は Plural（同 *plural*）の略。

Ⅱ 冠詞と名詞の格変化

A. 冠詞と名詞 (S. 12)

1 定冠詞と名詞の格変化

4（男性、女性、中性、複数） × 4（1 格、2 格、3 格、4 格）

の表が

2 種類（定冠詞、不定冠詞）

◇ ドイツ語の名詞は、いま説明した格（1 格、2 格、3 格、4 格）に応じてかたちを変える。つまり、**格変化**する。ただし、一部を除いて名詞自体が格変化することではなく、基本的に名詞につく冠詞が変化する。冠詞は、英語と同じく、**定冠詞**（*the* に相当）と**不定冠詞**（*a* や *an* に相当）の 2 種類がある。

* 無冠詞の場合でも潜在的にはすべての名詞（や代名詞）はいずれかの格に属しており、例えば第 1 課で扱った *Ich lerne Deutsch.* の *ich* は 1 格、*Deutsch* は 4 格である。

** ドイツ語以外の言語では、名詞そのものが格変化するものもある。

格変化は、やはりいま説明した性・数（男性、女性、中性、複数）ごとに決まっているので、ドイツ語の格変化としては 4×4 の表を 2 種類だけ覚えてもらうことになる。

* 複数では男性、女性、中性の区別はなくなり、すべて「複数」として一くくりに扱われる。

◇ 基本となるのは**定冠詞の格変化**である。これは、

男性： *der, des, dem, den*

女性： *die, der, der, die*

中性： *das, des, dem, das*

複数： *die, der, den, die*

名詞自体の変化は、男性／中性 2 格 → *+-[e]s*、複数 3 格 → *+-n*

を順番に唱えて覚えるのが恒例となっている（逆に言えば、丸暗記するしかない）。

* *der* の発音に注意。この *er* は人称代名詞の *er* や *lernen* などと同じく、*[ea]* と読む。

◇ 前述の通り、「一部を除いて」名詞自体が格変化することはないが、男性 2 格、中性 2 格、複数 3 格だけは名詞自体にも語尾がつくので注意。

・男性 2 格、中性 2 格：名詞自体に *-s* もしくは *-es* をつける。

* *-s* でなければならない場合や *-es* でなければならない場合もある。もっとも、いまはあまり気にする必要はない。

** 英語で *'s* をつけて所有を表す (*my father's car* など) 延長であると考えればよい。ただし、ドイツ語ではアポストロフは不要。

・複数 3 格：名詞自体に *-n* をつける。

◇ 定冠詞の格変化を表にまとめると以下の通り。

	男性	女性	中性	複数
1 格	<i>der</i> –	<i>die</i> –	<i>das</i> –	<i>die</i> –
2 格	<i>des</i> <i>–[e]s</i>	<i>der</i> –	<i>des</i> <i>–[e]s</i>	<i>der</i> –
3 格	<i>dem</i> –	<i>der</i> –	<i>dem</i> –	<i>den</i> <i>–n</i>
4 格	<i>den</i> –	<i>die</i> –	<i>das</i> –	<i>die</i> –

* 複数形は未学習だが、便宜上、教科書 S. 12 の表では *Heft* (*n.* ノート) の複数形 *Hefte* を例示してある。

2 不定冠詞と名詞の格変化

**不定冠詞の格変化 → 定冠詞の格変化語尾の前に ein-を代入、ただし、
男性 1 格、中性 1 格、中性 4 格は ein のまま**

◇ 一方、不定冠詞の格変化は、定冠詞の格変化のヴァリエーションといってよい。まず、定冠詞の格変化表から語尾を抜き出すと、以下ようになる。

	男性	女性	中性
1 格	-er	-e	-as
2 格	-es	-er	-es
3 格	-em	-er	-em
4 格	-en	-e	-as

* 英語と同じく、ドイツ語にも複数の不定冠詞は存在しない。

** 女性 1 格および女性 4 格については、-ie ではなく -e を抜き出すこと。

不定冠詞では

- ・この - の部分に **ein** を加えるのが基本。
- ・ただし、男性 1 格、中性 1 格、中性 4 格は無語尾（ein のまま）になる。
- * つまり、不定冠詞の格変化は定冠詞の格変化からアレンジできるので、こちらは丸暗記する必要はない。

◇ 名詞自体には、やはり 男性 2 格と中性 2 格に -s、複数 3 格に -n の語尾がつく。

◇ 不定冠詞の変化表をまとめると以下の通り（無語尾のところに○を付した）。

	男性	女性	中性	複数
1 格	ein○ -	eine -	ein○ -	XX -
2 格	eines -[e]s	einer -	eines -[e]s	XX -
3 格	einem -	einer -	einem -	XX -n
4 格	einen -	eine -	ein○ -	XX -

* 複数に関しては、便宜的に無冠詞のものを加えた。

** einer における er の発音は、der の er と異なり、[a:] の音となることに注意。

■ Das ist ... の文 (S. 12, Übung 1)

Das ist ... = 「これは...である」

This is ... / That is ...

◇ 基本的な文「これは...である」は、Das ist ...によってつくる。英語の *This is...* や *That is...* の文に相当する。

* 現時点ではわかりにくいですが、この das は上で学習した定冠詞の das ではない。のちにまとめて学ぶ（教科書第 13 課）指示代名詞の das である。よって、名詞にくっつくのではなく単独で、性別に関係なく使用可能になる。

Was ist das?

これはなんですか？

- Das ist ein Tisch.

これは机です。

■ **wer** と **was** の格変化 (S. 13, Übung 3)

◇ 疑問代名詞 **wer** は格変化する。

	格変化	英語	意味	備考
1 格	wer	<i>who</i>	誰が	
2 格	wessen	<i>whose</i>	誰の	(一般の 2 格と異なり前置修飾する)
3 格	wem	<i>whom</i>	誰に	
4 格	wen		誰を	

さしあたり、2 格以外の用法を覚えること。

◇ Wer trinkt abends Bier? (1 格)

誰が晩にビールを飲むのですか？

◇ Wem gehört das Gepäck? (3 格)

その荷物は誰のですか？

* 3 格目的語をとる自動詞 *gehören* については、本配付資料 S. 8 を参照。

◇ Wen liebt er? (4 格)

彼は誰を愛しているのですか？

◇ 疑問代名詞 **was** にも格変化自体は存在する。

	格変化	英語	意味
1 格	was	<i>what</i>	なにが
2 格	-	-	-
3 格	-	-	-
4 格	was	<i>what</i>	なにを

一方、かたちは 1 格、4 格ともに **was** のままである。

◇ Was ist das? (1 格)

これはなんですか？

◇ Was kauft die Kundin? (4 格)

そのお客さんはなにをかうのですか？

Ⅲ 格の基本的な用法

■ 英語の 5 文型の復習

◇ ドイツ語の「格」概念について理解するには、最初の外国語として英語を勉強した学習者の場合、英語の「5 文型」を押さえておくといよい。例年、この 5 文型の理解が怪しい受講者がいるため、ここであらためて復習しておく。本授業は、シラバスにも書いたように、ドイツ語の学習によって英語への認識が深まることをコンセプトとして掲げている。この復習がその一助となれば幸いである。

◇ **第 1 文型 (SV)** は、主語 (S) と動詞 (V) で構成される。この場合、動詞は自動詞であり、目的語も補語も必要としない (完全自動詞)。

Money talks.

The sun rises in the east.

* 後者のように、副詞句をとともなう場合もある。こうした副詞句は SV の枠外。

◇ **第 2 文型 (SVC)** は、主語 (S) と動詞 (V) と補語 (C) で構成される。この場合、動詞は自動詞だが、必ず補語を必要とする (不完全自動詞)。不完全自動詞には、

- ・ 状態 (「～である、～のままである」) : be, remain, stay など
- ・ 状態の変化 (「～になる」) : become, get など
- ・ 感覚 (「～に見える、～に聞こえる」) : seem, sound など

の 3 パターンがある。この場合、補語は、主語の性質を説明するもので、名詞か形容詞である。

He is a student.

The boy became a great scientist.

He looks young for his age.

* for his age は副詞句であり、やはり SVC の枠外。

* 大雑把に言えば、S=C が成立するのが第 2 文型である。第 3 文型や第 5 文型と比較せよ。

◇ **第 3 文型 (SVO)** は、主語 (S) と動詞 (V) と目的語 (O) で構成される。この場合、動詞は他動詞であり、必ず目的語を必要とする。

He loves his wife.

Everyone has talent.

◇ **第 4 文型 (SVO₁O₂)** は、主語 (S)、動詞 (V)、第 1 目的語 (O₁)、第 2 目的語 (O₂) で構成される。

動詞はやはり他動詞である。この場合、

- ・ 第 1 目的語 : 「～に」
- ・ 第 2 目的語 : 「～を」

* 近年の中学高校英語では第 1 目的語、第 2 目的語として教えているようだが、それぞれ間接目的語、直接目的語とも呼ぶ。

He gave his son a watch.

I chose her a book.

◇ **第 5 文型 (SVOC)** は、主語 (S)、動詞 (V)、目的語 (O)、補語 (C) で構成される。動詞はやはり他動詞である。この場合、補語は、目的語の性質を説明するもので、やはり名詞か形容詞である。

They named their daughter Ann.

His answer made her angry.

* 大雑把に言えば、O=C が成立するのが第 5 文型である。第 2 文型と比較せよ。

◇ 補語と目的語の差異がわからない学生が散見されるが、主語と（第 5 文型の場合のみ目的語と）＝で結べるのが補語、動詞の動作の対象になるのが目的語、と考えればよい。

■ 1 格から 4 格までの基本的な用法

1 格： 主語 (S)、述語内容語 (C)

2 格： 所有 (of ～、後置修飾)

3 格： 第 1 目的語 (O₁)

3 格目的語だけをとる特殊な動詞の目的語

4 格： 目的語 (O) ／第 2 目的語 (O₂)

* S、C、O などは英文法で用いるものだが、ここでは便宜的に併記した。

◇ **1 格**は、**主語**（～は、～が）か**述語内容語**（英語でいう補語、「何々である」というときの何々）となる。その際、英語同様、述語内容語をとることができる動詞（「である」に類する自動詞）は限定されていることに注意。現時点では **sein**、**werden**、**heißen** が登場している。

Ich bin Student.

(1 格) (1 格)

私は学生である。

Das ist ein Tisch.

(1 格) (1 格)

それは机である。

* 一般に職業や身分などを表す名詞が述語内容語となる場合、無冠詞となる。（⇒教科書 S. 11）

◇ **2 格**は、**所有**（～の）を表し、基本的には**後置修飾**となる。

* 英語の of ～ であると考えればよい。

Das ist das Buch des Lehrers.

(1 格) (1 格) (2 格)

それは教師の本である。

◇ **4 格**は、**目的語**（～を）を表す。

* 説明の便宜上、3 格よりも 4 格を先に解説している。

Ich lese das Buch.

(1 格) (4 格)

私はその本を読む。

* lesen は他動詞「(4 格)を読む」。

◇ 3 格は、

- ・基本的には、英語の第 4 文型（SVO₁O₂）に類する文における O₁／第 1 目的語（～に）を表す。もちろん、その場合、O₂／第 2 目的語（～を）には 4 格を用いる。

Ich gebe einem Freund das Buch.

(1 格) (3 格) (4 格)

私はある友人にその本を与える。

* geben は「与える」、英語の give に相当する動詞。give も周知の通り第 1 目的語（～に）と第 2 目的語（～を）をとる。

- ・一方、3 格目的語だけをとる特殊な動詞があり、それらはもちろん 3 格とともに使用する。例としては、helfen（〈3 格〉を助ける、手伝う）、gehören（〈3 格〉に属する、〈3 格〉のものである）など。

* helfen は help、gehören は belong to と考えてよい。

** 繰り返すと、helfen に関しては、「～を助ける」という日本語的な語感からすれば、4 格をとると考えても不思議ではない（英語の help は普通の他動詞でもある）。だが、実際には 3 格目的語をとる「自」動詞である。こうした語法は、いちいち辞書を参照しないと判断できない。

Wir helfen dem Professor.

(1 格) (3 格)

私たちはその教授を手伝っている。

Die Uhr gehört einer Studentin.

(1 格) (3 格)

その時計はある女子学生のものである。

なお、こうした 3 格目的語だけをとる動詞は、自動詞に分類される。繰り返すと、ドイツ語では、4 格を目的語とする動詞のみ他動詞と呼び、それ以外はすべて自動詞と呼ぶ。

	分類	例
他動詞 (vt.)	単に 4 格目的語をとるもの	lernen（〈4 格〉を習う）、lieben（〈4 格〉を愛する）
	（加えて 3 格目的語もとるもの）	geben（〈3 格〉に 〈4 格〉を与える）
自動詞 (vi.)	単独で使用するもの	liegen（ある、横たわる）、wohnen（住む）
	（方向や目的地をとるもの）	gehen（～に行く）、fahren（～に乗物で行く）
	述語内容語をとるもの	sein（〈1 格〉である）、werden（〈1 格〉になる）
	3 格目的語のみをとるもの	helfen（〈3 格〉を助ける）、 gehören（〈3 格〉に属する）

連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>